

# ALA + 2価鉄入り高機能剤「ALA-FeSTA」の特長と使い方



ALA、2価鉄、亜リン酸を配合した「究極」の高機能液肥

「ALA-FeSTA」は「葉緑素」の素になるALA（5アミノレブリン酸）、2価鉄、マグネシウムを始め即効性の各種機能成分（亜リン酸、機能性アミノ酸、微量元素、機能性糖類など）を配合した統合タイプの高機能液肥です。低日照時の葉面散布で抜群の効果を発揮します。

- 成分 窒素 4.5：リン酸 6.5：カリ 5.5 pH2.5
- 窒素分はアミノ酸含有、リン酸は一部亜リン酸、微量元素配合
- 容量：1kg（780ml）



## 《ALA-FeSTAの特長》

- \* **ALA + 2価鉄のシナジー効果で葉緑素を積極生成！**
- \* **低日照時／低温時の葉面散布で大きな効果（光合成＋代謝向上）**
- \* **亜リン酸や機能性糖類などを最適配合。これ1剤で効果を発揮！**
- \* **剤の持続性＋自律性UP（ALA前駆物質のグルタミン酸を配合）**
- \* **従来の高機能液肥シリーズとの混合散布も可能です。**

### ★ALAは2価鉄のチカラで葉緑素になる



\*ALAとは…

生体内に含まれる天然アミノ酸。葉緑素(クロロフィル)、血液(ヘム)の原料になる。ALAとその誘導体には多様な生理活性(ストレス耐性向上、代謝促進があり、様々な応用例が報告されています。

### ★ALAの効果を受けとめる即効成分＋機能成分



### ALA-FeSTAの散布効果 (比較: シニア/ハクサイ)



1000倍希釈液を1トリー当たり100cc程度灌水施用。本試験では散布72時間で目視できる効果が出た。散布区の葉の色、大きさや厚みに差が出ている。

### ★使用上の注意

酸性肥料のため石灰、アルカリ系資材／薬品(石灰硫黄合剤、銅剤)との混用は出来ません。

### ★上手な使い方 (ポイント)

- 葉面散布の施用がおすすめです。
- 7～15日間隔で施用します。
- 好適濃度は1000～2000倍です。
- 光合成が盛んになるため、水や肥料の吸収も高まります。不足しないよう肥培・水管理が必要です。
- 他の高機能液肥と混用すると効果的です。



# ●「ALA-FeSTA」の有効成分：ALAについて

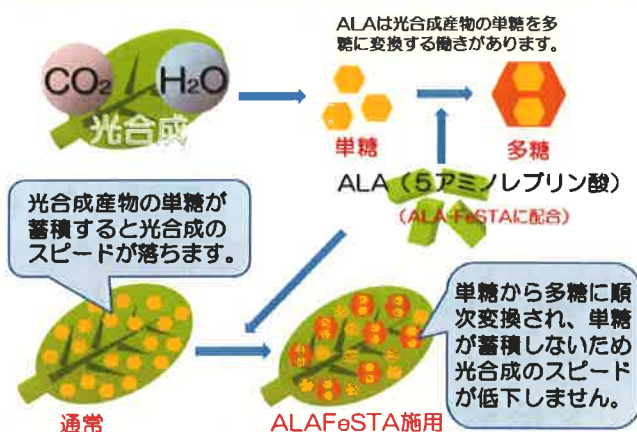
ALA(5-アミノレブリン酸)は生体内で合成される光合成細菌由来の天然成分です。葉緑素(クロロフィル)、血液(ヘム)の原料のひとつで、生物にとって非常に重要な物質です。ALAとその誘導体には多様な生理活性があり、様々な応用例が報告されています。

## 【参考】ALA-FeSTAの効果について(フロー)

ALA-FeSTAはALA+2価鉄供給により光合成能低下を食い止める効果、グルタミン酸をバイパス供給することでALAを積極的に生成する効果を持つ。各種代謝向上のため「受け」となるNPKは即効性のあるものを、微量要素も従来比2倍で配合した。



## 効果① 光合成産物の転流促進と光合成能の維持



## 効果② 肥効の促進(窒素代謝の維持)

植物体内での窒素代謝 鉄力あくあF14と併用で更に効果!!



## 効果③ 耐塩性・耐寒性の向上(糖蓄積による)

ALA(5アミノレブリン酸)の施用により葉・根に多糖類(フルクタン等)が蓄積し浸透圧を上昇させます。また、塩害における光合成障害を軽減する役割の植物体カタラーゼ活性を上昇させます。サカタ液肥GBと併用で更に効果!!



「ALA-FeSTA」は葉緑素(クロロフィル)の原料になるALAや2価鉄、マグネシウムをはじめ、ALAの前駆体である「グルタミン酸」や「受け」となる肥料部分(亜リン酸や各種ミネラル)を最適配合しているため、単剤使用でも大きな効果が期待できます。

# ●「ALA-FeSTA」Q&A

## ●使い方(効かせるコツ)について

基本的に植物の光合成の盛んな午前中に施用してください。但し高温時は肥料焼けの恐れがあるため、午後～夕方に施用します。また「ALA-FeSTA」を施用すると光合成が盛んになり吸肥力や吸水力が上がりますので施肥量、灌水量を調整して下さい。

## ●他の液肥や農薬との混用は?

サカタ推奨の高機能液肥※と混用可能です: ※鉄力あくあF14、ホストップ、ホスカル、ホスマグ、ネイチャーエイド、ソイルマスター、サカタ液肥GB(ソイルマスターと混用)。農薬の混用については推奨しておりません、中性～弱酸性の殺菌/殺虫剤について植害試験確認後、お使い下さい。